

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070300324		
法人名	医療法人 医和基会		
事業所名	グループホーム金刀比羅		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市戸畑区金比羅町4番29号 (電話) 093 - 873 - 8731		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年6月17日	評価確定日	平成21年7月20日

## 【情報提供票より】(平成 21年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 2 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤	21人, 非常勤 2人, 常勤換算 15人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	9 階建ての	2 階 ~	4 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費)20,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000円)	有りの場合 償却の有無	有(10年)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 ( 4月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	12 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧山中央病院 金刀比羅診療所
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北九州中央公園に隣接する医療・福祉複合施設の中に、グループホーム金刀比羅は位置している。入居者の絶好の散歩コースとなっている金比羅池周辺の遊歩道や、桜や紅葉など四季折々の色を見せる金比羅山があり、恵まれた周辺環境を有している。隣接する同法人の診療所や母体医療法人との連携、また医療・福祉複合施設の多様なサービスとの連携により、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう支援している。昨年開催された全国セミナーでの実践発表会では、半年間の研究の成果を発表し、管理者・職員にとって有意義な参加となっている。丁寧なアセスメントにより本人の全体像の把握に努め、わかりやすく詳細な記録やケア手順書が作成され、個性あふれる介護計画作成が行われており、本人本位の日々の暮らしの支援につながっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果は運営推進会議で報告を行い、改善に向けて具体的に取り組んでいる。昨年評価以降、ホーム独自の理念が創られており、また評価を一つのきっかけとして、全国セミナーでの実践発表へと取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットで話し合いを行い、全職員での自己評価作成となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、入居者・家族・自治会長・民生委員・包括支援センター職員等の参加にて開催されている。参加者の意見や要望を参考にしながら、サービスの向上に具体的に活かしていくよう努めている。今後は、定期開催に向けての様々なアプローチが必要であると考えます。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	意見箱を設置している。家族からの意見や要望があれば、速やかに対応できるようにマニュアルが作成されており、外部者にもわかるように掲示している。運営推進会議の後で、家族とのコミュニケーションの機会を設け、また家族会が年2回開催されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	福祉複合施設として、併設しているケアハウス・シニアハウス・生活支援ハウスとの交流・連携がある。自治会に加入しており、地域の福祉まつりやふれあいまつりにて、カラオケ大会への参加や入居者の作品を出展する等の交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念と共にグループホーム独自の理念として、入居者一人ひとりの人格を尊重し、自主性を重視したサービスの提供、家庭環境に合わせたサービスの支援、生き甲斐のある毎日のための心のふれあいの重視等を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム内各所に理念を掲示しており、職員の名札の裏にも理念を明記している。日々職員の意識と理解を高めながら、実践に向けて取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	福祉複合施設として、併設しているケアハウス・シニアハウス・生活支援ハウスとの交流・連携がある。自治会に加入しており、地域の福祉まつりやふれあいまつりにて、カラオケ大会への参加や入居者の作品を出展する等の交流が行われている。地域との防災協定が結ばれており、相互協力体制が構築されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を運営推進会議等で報告・検討を行い、改善に向けて取り組んでいる。自己評価についても、管理者・職員全員で取り組み、作成会議・資料回覧等が行われている。また新規職員の研修の機会としても、評価を活用している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者・家族・自治会長・民生委員・包括支援センター職員等の参加にて開催されている。参加者の意見や要望を参考にしながら、サービスの向上に具体的に活かしていくよう努めている。		地域に開かれたグループホームとして、運営推進会議の定期開催が求められています。地域や様々な関係者との連携強化や情報発信により、定期開催の実現に向けて、新たな取り組みや工夫が必要であると考えます。

グループホーム 金刀比羅

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市町村の主催する研修に積極的に参加し、情報収集に努め、質の向上につながるよう取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料を各ユニットに整備し、必要な場合に支援できるように、会議や勉強会等にて知識を深めている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の面会時に日常の様子や健康状態の報告を行い、情報交換・共有を図っている。面会頻度の少ない家族に対しては、電話や手紙などで連絡・報告をしている。希望があればケース記録も開示している。また、不定期ではあるが通信を発行し、行事等について伝えられている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	意見箱を設置している。家族からの意見や要望があれば、速やかに対応できるようにマニュアルが作成されており、外部者にもわかるように掲示している。運営推進会議の後で、家族とのコミュニケーションの機会を設け、また家族会が年2回開催されている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	入居者と職員の馴染みの関係を重視しており、異動は最小限となっている。事業所全体として、行事などを通じて馴染みの関係づくりに努めており、やむを得ず離職や異動が発生した場合にも十分に説明を行い、入居者への影響が最小限となるよう配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	法人としての採用となっている。職員の年齢は幅広く、年齢や性別による排除はない。ヒアリングや個人面談を実施し、本人の希望や能力が活かせるように配慮している。資格取得や社会参加についても積極的に支援している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 金刀比羅

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	高齢者虐待防止委員会及び拘束防止委員会を設置し、定期的に勉強会が行われており、全職員、また家族を含めた人権教育・啓発活動に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	研修計画を作成し、積極的に内外の研修参加の機会を確保しており、職員全員が参加できるように配慮している。昨年開催された全国セミナーでの実践発表会に向けての取り組みは、充実感と達成感の共有となり、有意義な参加となっている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	相互訪問や研修会への参加、実習の受け入れ等、積極的に交流が図られている。今年度は合同勉強会等を企画しており、職員間の交流を深めていきたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	自宅訪問・入院先訪問を行い、デイサービスやショートステイを利用しながら、徐々に馴染めるよう配慮している。家族との相談・協力により、安心して入居ができるように、柔軟に支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で同じ時間を共に過ごすことで、職員が学ぶことも多く、励ましてもらう事も多い。入居者・職員がお互いに「ありがとう」と言える関係が構築されている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 金刀比羅

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントが充実しておりセンター方式を活用しながら、より本人の全体像に近づくべく、一人ひとりの思いや生活歴の把握に努め、3ヶ月毎に更新されている。充実したアセスメントを活用して、本人本位の介護計画につなげている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケース記録等が工夫されており、状況把握がしやすいものとなっている。本人・家族の意向を大切に、日々の記録や、様々な角度からの情報を活かした、個別性が十分伝わってくる介護計画が作成されている。また誰にでも伝わりやすいよう、個別のケア手順書も作成されている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>初回計画については1ヶ月、通常は3ヶ月毎の見直しが行われている。本人・家族の要望や状況の変化があった場合には、その都度見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療・福祉の複合施設の中にあり、医療連携体制が充実している。またショートステイやデイサービスを活用して、本人・家族の要望や状況に、柔軟に対応している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望を重視している。毎週専門医の往診があり、また併設する診療所及び協力医療機関との24時間体制での連携により、適切な医療が継続して受けられるように支援している。医療・福祉の複合施設であることから、医療連携体制の充実があり、本人・家族の安心につながっている。</p>		

グループホーム 金刀比羅

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	「重症化した場合における対応に係る指針」を定め、入居時に説明を行っている。家族・医師・職員全員で協力体制を整備している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日々のケアの中で、入居者一人ひとりの尊厳を大切にされた言葉掛けや対応に努め、職員間でも確認を行っている。個人情報の取り扱いにも、十分に配慮が行われている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者一人ひとりのペースを大切にし、無理強いとならないよう、その日その日の意向に、柔軟に対応するように努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	盛り付けや配膳、後片付け等に、個々の状況や希望に合わせた参加が行われている。配膳や盛り付けについてもカンファレンスが行われ、視覚からも「食」を楽しむ工夫が行われている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	ある程度の曜日・時間の予定はあるが、入居者の希望や状態に合わせて、柔軟に支援している。1階の大浴場も活用しながら、ゆっくりと入浴の時間が楽しめるよう支援している。夜間を希望する方には、ユニット間の連携により対応が行われている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 金刀比羅

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意分野や経験を活かして、力を発揮できる場面作りが行われており、達成感に繋がるよう配慮がなされている。隣接する喫茶店でお茶を楽しんだり、レストランでの食事などに外出し、気分転換が図られている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	北九州中央公園に隣接しており、金比羅池周辺には、自然に恵まれた中に整備された公園があり、日常的に散歩に出掛けている。買い物やドライブ、外食など、入居者の希望にできるだけ沿えるよう支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、また交通量の多い国道にも近いことから、エレベーターには施錠がされている。入居時に家族に説明し、同意と理解を得ている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体の合同訓練が年2回、事業所独自の避難訓練が年1回、年間計画の中で実施されている。地域との防災協定を結んでおり、地域住民やボランティアの参加があり、夜間を想定した訓練も実施されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導により、栄養バランスに配慮された献立が作成されている。食事・水分摂取量を記録し、1日総量を把握している。できるだけ自立して食事が摂取できるように、自助具の利用などに配慮が行われている。また一人ひとりの状況に合わせた食事形態にも、柔軟に対応している。		

グループホーム 金刀比羅

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間には、季節の花や飾りにより、季節感が表現されている。採光や音の刺激にも細やかな配慮がなされており、日々の天候等にあわせて、調整されている。車椅子や歩行状態に配慮してソファが配置されており、落ち着いた雰囲気の中で、それぞれのくつろげる場所となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には筆筒や仏壇、テーブルや家族の写真など、馴染みの物が持ち込まれており、居心地よく過ごせるよう配慮がなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			